

『ふてぼり』『かいぼり』

田原市赤羽根町 古谷延男

その川には魚がいっぱいいました。今では絶滅危惧種に指定されている鰻もいました。

私は、夏になると「ふてぼり」をするのが楽しみでした。夕方、兄や弟といっしょに川に行き、釣針にみみずなどの餌をつけ、釣糸を重たい石にしばりつけ、鰻がおりそうな所に仕掛けておきます。翌朝、ねむたい目をこすりながら川へ行き、仕掛けておいた釣糸を引きあげると鰻がかかっています。

腕の太さほどもある大きな鰻がかかっていたことがあります。流れの上流のよどんでいる所でした。釣糸をたぐりよせると、引張る手ごたえがあり、八十センチほどもある鰻があがってきました。「やったあー」びっくりするやら嬉しいやらです。ばけつに入れて家に帰り、たらいに放ち、みんなで見物です。田廻りから帰ってきた父もいます。「大きなあ」「川のヌシかもしれない」

ふてぼりの鰻かこみし夏の朝 延男

稲がみのり、田んぼに水がいらなくなると溜池の水を干し魚を捕えます。たしか「かいぼり」と言っていました。

水を抜いたどろんこの池には、鯉や鮒がびちびちとはねています。立派な鬚をはやした鯰もいます。泥の中から首を出している鰻もいます。

子どもたちは大人の後について腰までつかるとどろんこの池に入り魚を追いかけます。とびはねている鯉を抱えるようにして捕えます。

首を出している鰻を両手でぎゅっと握って捕えます。たくさん捕えた人は少かった人に分けてあげます。

孫たちに体験させてやりたいとおもう遠い昔の思出です。

かいぼりやぎゅっとにぎった泥鰻 延男